

氏名	添田 啓子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1980年聖路加看護大学看護学部、1992年聖路加看護大学大学院研究科（博士前期課程看護学専攻）、2005年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科博士後期課程。				
経歴	1986年聖路加看護大学助手、1993年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2005年同助教授、2008年同教授。				
所属学会（役職）	日本小児看護学会（理事、評議員、専任査読者）、日本小児保健協会、看護科学学会、				

【2019年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	こどもセルフケア看護理論	共著	あり	医学書院、240ページ	片田範子編、有田直子、石浦光世、及川郁子、片田範子、勝田仁美、加藤令子、河俣あゆみ、栗林佑季、鎌田晃子、小室佳文、近藤美和子、笹山睦美、佐藤美緒、添田啓子、高谷恭子、田村恵美、田村佳士枝、手塚園江、中野綾美、西川菜央、沼口千恵子、橋倉尚美、原朱美、真鍋裕紀子、山崎麻朱。添田分担部分P14-16,第4章P76-121.	2019.9.30.
2						
3						
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
2						
3						
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護記録監査表の改定による看護師の認識の変化	共同		第29回日本小児看護学会学術集会（札幌）	○田村佳士枝 添田啓子 櫻井育穂 望月浩江 辻本健 村山奈津季 古谷佳由理（埼玉県立大学 看護学科）岡崎智美 株崎雅子 近藤美和子 久保良子（埼玉県立小児医療センター）	2019.8.4.
2	子どものセルフケア能力・親のケア能力を高める看護援助に関する文献検討	共同		第66回日本小児保健協会学術集会（東京）	○長谷美智子（武蔵野大学 看護学部）、櫻井育穂、辻本健、添田啓子（埼玉県立大学）	2019.6.14.
3						

(4) その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	看護系大学協議会看護学教育評価検討委員会 調査報告書 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標 - JANPU 会員校における活用状況と課題-	共同	一般社団法人日本看護系大学協議会ホームページ 活動報告書	小山眞理子（日本赤十字広島看護大学）、江川幸二（神戸市看護大学）、亀井智子（聖路加国際大学）、添田啓子（埼玉県立大学）、高橋和子（宮城大学）、田中美恵子（東京女子医科大学）、服部智子（日本赤十字広島看護大学）、平林優子（信州大学）	2019.6.
2	日本小児看護学会診療報酬検討委員会 第29回学術集会テーマセッション2018年度 診療報酬改定 入退院支援加算はとれているのか～なぜとれる、なぜとれない、みんなで考えよう！～	共同	日本小児看護学会ホームページ 診療報酬検討委員会	添田啓子、内田貴之、櫻井育穂、瀧田浩平、萩原綾子、古谷佳由理、西田志穂、橋倉尚美	2019.9.
3	日本小児看護学会 第29回学術集会テーマセッション 「こどもセルフケア看護理論」の考え方ーこどもへの支援ー	共同	第29回日本小児看護学会学術集会（札幌）	片田範子、添田啓子、田村恵美	2019.8.4.

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	子どものセルフケア能力・親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の発展	研究代表者	平成28年度～平成31年度
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	子どものセルフケア能力・親のケア能力獲得を支援する看護師の教育指導力の評価・定着	研究代表者	令和元年度～令和3年度
3				

3. 教育業績

(1) 講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	大学院博士前期課程看護学専修 看護理論	○	5	学生が自らの看護実践を振り返り、臨床で使われる看護理論について学び、理論を用いて実際に事例分析を行う。学生が理論を使った事例分析を行い、自己の看護と理論を結び付けて使い、看護の質を向上できるように工夫している。
2	大学院博士前期課程「保健医療福祉研究法特論」の質的研究法		2	保健医療福祉の質的研究法について、その特徴、適する研究課題、研究方法について概説した。データ収集方法インタビューと分析の演習をグループで行った。また、文献抄読を行った
3	大学院博士前期課程「小児看護援助論」	○	13	小児看護の様々な現象を理解する上で重要となる理論や研究の動向を学ぶ授業をゼミ形式で行った。子どものボディイメージの発達・病気認知、ストレスコーピング、こどもの権利とプレパレーションなど。また、オレムセルフケア不足看護理論の小児看護への適用について学び、それらをふまえて小児と親・家族の健康に
4	大学院博士前期課程「看護研究」		3	看護学における質的研究法の理解を含めるためにM-GTAを抄読し討議を行った。質的研究法を使った研究論文を抄読し、クリティックについて、討議した。

5	大学院博士前期課程 「小児看護援助論Ⅰ」	○	15	小児看護専門看護師の活動について、これまでの文献や活動から学ぶ。様々な健康レベルにある子どもと家族に対する介入方法、介入の場による専門看護師の役割の違いを検討する。また、小児・家族に対して、臨床判断および倫理判断に基づき、状況に応じた支援を行うための方法を学び、複雑な問題を抱えた事例を分析し実践、調整、教育介入について検討する
6	大学院博士前期課程 「小児看護援助論Ⅱ」	○	11	小児看護における専門看護師の活動特に、コンサルテーション機能、調整機能、教育機能について学ぶ。コンサルテーションでは、相談者の思いを聞き感情の表出と整理を促しながら、子どもや家族、関わっている医療者、取り巻く環境など情報を明らかにし、ともに問題の明確化を行い、具体的な対応を検討できるよう支援することを学ぶ。学生のレポートに基づき専門看護師らと討議を行った。

(2) 演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	大学院博士前期課程「看護学演習小児看護（CNS）」		15	小児家族の健康・生活の状態を査定するための方法論を学ぶ。オレムセルフケア不足看護理論を用いて、事例を査定を行った。また、小児のアセスメントに必要な方法を学んだ。
2	学部看護学専門科目 こどもと家族のヘルスプロモーション		8	地域の様々な場や病院と在宅をつなぐ部門で、多様な健康状態にある子どもと家族の健康課題・ニーズについて理解し、ニーズに対応し健康を促進する看護について学ぶ。グループワークと隣地の専門家へのインタビュー、学んだことを発表する演習を構築、実施した。今年度は、新しく意欲的に小児の訪問看護を行っている施設を訪問しインタビューを行った。学生は主体的に学び、好評であった。
3	学部看護学専門科目 小児看護学Ⅲ		30	PBLチュートリアルで、事例の対象理解と発達像・健康像・生活像の把握、全体像の把握、回復を促す看護の方向性の検討を行った。事例は、口唇口蓋裂の乳児、喘息の幼児、川崎病の幼児で
4	小児看護学Ⅳ		10	小児看護学Ⅲで学んだ事例を用いて、小児看護に必要な技術演習を行った。演習で習得した知識・技術・態度を確認するため、技術テストを実施、学生の個別評価を行った。

(3) 実習

	実習の名称	科目責任者	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	大学院博士前期課程 「小児看護実践実習Ⅰ」	○	2.20.-3.4.	小児看護専門看護師の役割（実践機能（直接的ケア）、調整機能（倫理調整を含む）、コンサルテーション、教育機能）の実際、介入前後の現状分析、判断、評価について学ぶ。また、ケアとケアの統合を意識して小児看護専門看護師の役割を実践し、実施した内容を分析、レポートし、討議する。小児看護専門看護師としての役割・機能について検討する。高槻病院にて2名の学生が実習を行った。
2	小児看護学実習	○	後期8月、11-12月	子どもの病気・障害や療養の状況に合わせて、生命力の消耗を最小限にし、健康に向けて生活過程を整える看護を実践する。また、子どもとともに子どもの療養を支える家族も看護の対象ととらえ支援する。これらの実践を通して子どもの対象特性を理解し、子どもの看護に必要な知識・技術・態度を修得する。産休教員に代わり3グループを直接指導した。
3	IPW実習		10月	IPW実習の目的に応じて、4年次学生5名を指導した。

(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	大学院博士後期課程	通年	主指導 名	副指導 1名
2	大学院博士前期課程	通年	主指導 (指導教員) 3名	副指導 (指導補助教員) 1名
3	学部卒業研究	通年	主指導 (指導教員) 2名	副指導 (指導補助教員) 名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	博士前期課程学生の質的研究ゼミの主催	通年	大学院博士前期課程の学生の質的研究ゼミを主催し、指導した。月1-2回。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	ラダーレベルIII対象者研修	埼玉石心会病院	オレムセルフケア不足看護理論を使って看護を見直す	2019.5.21.
2	ラダーレベルIII対象者研修	埼玉石心会病院	オレムセルフケア不足看護理論を使って看護を見直す	2019.6.4.
3	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	小児看護学実習の展開	2019.6.25.
4	日本小児看護学会第29回学術集会 テーマセッション	こどもセルフ ケア研究グ ループ 埼玉県教育局	「こどもセルフケア看護理論」の考え方ーこどもへの	2019.8.4.
5	令和元年度 第3回養護教諭・看護教員合同研修会	埼玉県教育局 特別支援教育 課	「養護教諭と看護教員の協働について」	2019.12.25.
6	看護記録プロセス監査説明会	埼玉県小児医 療センター看 護部記録委員	看護記録プロセス監査の方法	2020.1.07.
6	オレム推進会議、全体ワークショップ	埼玉県小児医療 センターオレム 推進連絡会議	部署ごとカンファンレスの発表、全体への講評	2020.2.27.
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	一般社団法人日本看護系大学協議会	教育評価検討委員会委員		2019.4.1.-
2	一般社団法人日本小児看護学会	理事 診療報酬検討委員会担当		2019.4.1.-
3	一般社団法人日本小児看護学会	人材養成ワーキンググループ、小児看護実践基 盤グループリーダー		2019.4.1.- 2021.6.
4	一般社団法人日本小児看護学会	評議員		2017.6.-2021.6.
5	一般社団法人日本小児看護学会	専任査読者		2018.9-2022.8.
6	埼玉県越谷特別支援学校	学校評議員		2019.4.-2020.3.
7	一般社団法人日本小児看護学会	第31回学術集会会長		2019.6-2021.9.
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
2				
3				
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
2				
3				

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務	大学院入試委員会委員	2018.4.-2020.3.
2	全学的委員会及びセンター業務	20周年記念誌編纂委員会	2019.1.-2020.2.
3	大学広報活動	埼玉県看護協会看護への道ブースでの広報活動、進学相談	2019.4.27,7.21.
4	学科等における委員会等	4年次生担任長、就職支援面談、国家試験受験に向けた準備、学生への個別相談	2019.4.-2020.3.
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			